

もくじ

- ・ ヒバリのひっこし

ヒバリのひっこし

げんさく
原作： イソップ^{ぐうわ}寓話

イラスト： かつなが みつとし

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

3

ひろ むぎばたけ ま なか いちわ す つく
広い麦畑の真ん中に、一羽のヒバリが巣を作って
す どり
いました。巣には、オスとメスの、ふたごのひな鳥
きせつ あき むぎ ほ はたけいちめん
たちがいました。季節は秋。麦の穂が、畑一面に
こがねいろ し
黄金色のじゅうたんを敷いていました。

ひ かあ どり
ある日、お母さんヒバリが、ふたごのひな鳥たちに
い
言いました。

まえ むぎ ほ と
「いいかい、お前たち。そろそろ麦の穂のかり取りの
じ き ひやくしやう はたけ ようす み
時期だから、お百姓さんが畑の様子を見にきて、
なにか言ったら、ちゃんと聞いておくんだよ。
そしてなんて言ったか、お母さんに知らせなさい」
『はい！』



5

つぎ ひ どり るすばん
次の日。ふたごのひな鳥たちが留守番をしている
ひやくしやう
と、お百姓さんがやってきました。

と じ き あした きんじよ
「さて、そろそろかり取りの時期だな。明日は近所の
ひと たの と
人に頼んで、かり取ってもらうか」

ひやくしやう ひろ はたけ みわた い
お百姓さんは、広い畑を見渡して言いました。

かあ す もど
お母さんヒバリが巣に戻ってくると、ふたごの
どり ひやくしやう い
ひな鳥たちは、お百姓さんの言っていたことを、
かあ つた
お母さんヒバリに伝えました。

